

# 1. 調査報告概要表

## 【認知症対応型共同生活介護用】

作成日 平成19年12月13日

### 【評価実施概要】

事業所番号	2771300288
法人名	医療法人 河崎病院
事業所名	グループホームひまわり河崎
所在地	貝塚市水間183番地 (電話) 072-446-2510
評価機関名	社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1番54号 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 19年 11月 24日

### 【情報提供票より】(平成 19年 11月 1日事業所記入)

#### (1) 組織概要

開設年月日	平成 10年 1月 5日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	11人	常勤	4人, 非常勤 7人, 常勤換算 6.7人

#### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨・鉄筋 造り		
	2階建ての	2階 ~	2階部分

#### (3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	41,000円	その他の経費(月額)	8,000円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,300円			

#### (4) 利用者の概要 (平成 19年 11月 1日現在)

利用者人数	7名	男性	1名	女性	6名
要介護1	1名	要介護2	2名		
要介護3	3名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 84歳	最低	77歳	最高	93歳

#### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 河崎病院
---------	-----------

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成10年1月に、行政の要請によりモデル事業として設立されたグループホームです。内部は広いスペースのリビング・ダイニングルームがあり、大きな窓越しには山々や家並みが見え、陽あたりのよいリビングで利用者の方々はくつろいでいます。利用者と職員の明るい笑い声が絶えないことが職員の自慢と言われるように、利用者の表情が明るいことが印象的でした。病院に隣接しているため、緊急時でも安心感があります。また普段から医療サービスを受けられることで、家族の信頼と安心感は大きいものがあります。

### 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連科目:外部4) 前回の改善課題については、職員間で検討がなされ、改善に向けて取り組んでいます。入浴支援や食事を共に楽しむ支援等については、改善されています。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 外部評価を受審するにあたっては、職員間で周知されていますが、自己評価は、管理者とリーダーのみで実施していました。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議の規定も策定されており、利用者・家族・地域包括支援センターの職員・民生委員・ホームの職員が参加し、会議を開催しています。また会議での意見が、サービス提供に活かされています。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族の面会は頻繁にあります。いつでも家族や利用者から意見を傾聴することを説明し、面会時にはゆっくり話を聞いたり、時には電話で情報交換を行ったりします。家族からの意見・対応に関しての申し送りは、口頭のみで終わっているため、書面に残し今後検討していくことが望まれます。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 公民館での文化祭や祭りへの参加等、地域との関わりを大切にしています。外出の際に、近所の方から花を頂いたり、利用者の知り合いの方が隣接する病院の受診の際に立ち寄りされたりするなど、地域からも支持されているグループホームです。

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です)

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念として「利用者さまに、家庭的な環境と、安心と尊厳のある生活を送っていただくため、利用者みなさまの残された能力の活用・維持を図り、楽しく・充実した生活が営まれるよう努力いたします」を掲げ、利用者がその人らしく過ごせるよう支援しています。理念が長文であり、地域密着型サービスをより鮮明に打ち出すことも含め、理念の見直しを検討しようとしています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は明文化してホーム内に掲示されています。また管理者は職員に理念を共有するべく実践を通じて話し合っており、新任研修の時にも説明し、周知するよう伝えています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに務めている	散歩の途中に最寄りの駅まで出向き、駅員にホームや利用者を知ってもらったり、近隣の畑では花をもらったり、地域の方々と気軽に交流できるように務めています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の「改善すべき点」については、改善の取り組みが進んでいます。今回の自己評価は、管理者とリーダーとで行い、職員全員の参加・研修などによる取り組みではありませんでした。	○	管理者及び職員でサービス評価の意義を共有し、職員全員で問題点の把握や改善策を検討し、実践に向けての前向きな取り組みが求められます。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の規定が作成されており、地域包括支援センター職員・民生委員・家族代表などに参加を求め、2カ月に1回開催し、事業所の報告や意見を受けています。今回の外部評価内容を説明し会議で得た意見をサービス向上に活かすと共に、欠席の委員にも議事録を渡すなどの工夫が望まれます。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会づくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護保険課や地域包括支援センターの担当者とは適宜相談をしています。また、運営推進会議にも地域包括支援センターから参加してもらい、意見交換を行っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪は多く、面会時には必ず利用者の様子を伝えています。利用者の心身の状況や変化が生じた場合はその都度電話で家族へ報告をしています。現金預かりの管理は、出納帳に記載し、レシートと一緒に保管しています。家族の面会時にはサインを受けていますが、今後は現金の出し入れについて、職員2人でダブルチェックを行う等の対応が期待されます。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とは面会時にできるだけ話す機会を設け、家族の意見や希望を聞くように配慮しています。またご意見箱は備え付けてあります。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職はほとんどありません。職員の顔写真を掲示していますが、夜勤専属職員の顔写真は掲示されておらず、検討が望まれます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要に応じて外部研修に参加し、日ごろのケアに活かすようにしています。ただ内部研修や伝達研修についての記録は不十分です。	○	研修は職員のレベルを高める為に実施するものであり、職員レベルの均一化を図る上からも、年間研修計画をたてると共に、研修実施記録を残し、不参加者に対しても研修内容の回覧等による情報共有の徹底が求められます。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大阪認知症高齢者グループホーム協議会に加入しています。周辺施設への訪問・見学などを行い、交流を図っています。ネットワークづくりや勉強会の開催などの積極的取り組みが望まれます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学はいつでも受け入れるようになっています。入居が決定してから、入居までグループホームで過ごす時間を持ち、少しずつサービスの場に慣れてもらう工夫をしています。ただし入居前に、職員による入居予定者宅への訪問ができていません。	○	入居前に入居予定者宅を訪問し、部屋を見せてもらうなど利用者の生活状況や生活歴を把握することが求められます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は、炊事・洗濯・掃除・植木の手入れ等、それぞれに役割があります。利用者と職員が共に支え合う生活を営んでいます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族の面会も多く、家族の希望や利用者の日々の生活から一人ひとりの思いや暮らし方の希望を聞き取り、アセスメントに活かしています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	個別ケアを実践するための介護計画を作成しています。カンファレンスは開催していますが、職員間だけの話し合いになっています。	○	利用者がより良く暮らすために、家族や関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画が求められます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは、定期的には3ヶ月毎に実施しています。状態の変化が生じた際には、その都度見直しを行い、利用者の変化に応じた介護計画を作成しています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援（事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の都合がつかない場合の通院介助、外出への付き添い等、生活の継続が図れるように支援しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援の協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者がそれぞれ希望する、かかりつけ医師で引き続き医療が受けられるように、契約時には受診状況を聞き取り、利用者・家族の希望を尊重した支援を行っています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアの指針が作成されています。関連病院との連携により、支援に取り組む体制はできています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者への尊厳に配慮した声かけ・対応を行っており、ミーティング等で職員への徹底を図っています。個人情報に関する規定は作成されていません。個人ファイルが、利用者の目につくところに置いてありました。	○	今後は、プライバシーの観点からも、利用者や家族、また外部の方から直接個人ファイルが見えないように工夫すると共に、書類の管理方法の検討が求められます。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課や決め事はなく、利用者のペースに合わせた生活になっています。生活のリズムに配慮し、個別のペースで生活できるように支援しています。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者にも食事づくりを手伝ってもらっています。利用者と職員と一緒に食べて、食事を楽しんでいます。前回の外部評価を受審した際に示された項目でしたが、改善されていました。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本は、週4回の入浴になっています。希望があれば、入りたい時に入ってもらえることができ、利用者一人ひとりにあった支援をしています。入浴に関しても、前回の外部評価を受審した際に示された項目でしたが、職員間で話し合い、すぐに改善されました。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	炊事・掃除・植木の世話等、利用者が生活に意欲をもってもらう働きかけと支援を行っています。楽しみごとを増やす場面づくりのために、利用者の希望を聞き、職員間で共有しながら支援しています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出の意義を理解し、週1回でも外出できるよう検討していますが、まだ実現できていません。外の空気に触れる機会になればと、ベランダの植木の手入れや建物の周りを散歩したりしています。	○	利用者が希望するところへの外出支援や、職員配置等の工夫や検討が求められます。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	隣のケアハウスとの往来や玄関の出入りや、エレベーターの乗り降りも自由になっています。また身体拘束もありません。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時のマニュアルがあり、避難訓練も行われています。非常口は、緊急時にはすぐに開けられるようになっています。非常用の食品等の準備はありません。	○	災害発生時を想定して、非常用食品の用意や、定期的な点検が求められます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分摂取量の記録があり、利用者一人ひとりの把握ができています。献立は同法人内の栄養士が立てています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広いリビングは、大きな窓で日当たりがよく、四季の移り変わりがよく見えます。窓際には椅子を置き、山の景色やベランダにある鉢の花を見ながらくつろぐこともできます。応接セットやソファを置き、利用者が好きな場所で過ごせるような工夫があります。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が以前使っていた馴染みの家具や、大切にしている家族の写真等を持ち込み、その人らしい居室づくりに工夫されています。利用者に自分の居室を案内してもらいましたが、「私の部屋」という思いが伝わりました。		